

基礎研 レター

【アジア・新興国】 アジア生命保険市場の動向・ 変化と今後の展望

保険研究部 兼 経済研究部 主席研究員アジア部長 平賀 富一
(03)3512-1822 hiraga@nli-research.co.jp

はじめに

本稿では、最初に、昨年（2014年）のアジア生保市場の動向を振り返り、次いで15年・16年の見通しを概観する。その後、2004年と2014年の生保関連の主要な指標を対比し過去10年間の変化を分析しつつアジア生保市場の世界市場におけるプレゼンスの拡大傾向を確認する。最後に中長期の市場展望について最近の各機関の公表資料も参照しつつその要点を述べる（注：本稿では、アジア生保市場として、NIES4（韓国・香港・台湾・シンガポール）、ASEAN5（マレーシア・タイ・インドネシア・フィリピン・ベトナム）と中国、インドの11国・地域（「アジア11」）を主な対象とする）。

1—— 2014年のアジア生保市場の動向と15年・16年の見通し

図表-1 アジア主要国・地域の経済・生保の主要指標（2014年）

	人口 百万人	名目GDP 10億ドル	一人当たりGDP ドル	実質GDP成長率 (2012-14年、 年平均伸び率、%)	生保収入保険料			一人当たり保険料 ドル	保険料/GDP %
					百万ドル	対前年増減(%)	同左実質ベース(%)		
韓国	50	1,417	28,101	2.8	101,572	11.0	6.3	2,014	7.2
香港	7	290	39,871	2.3	36,856	10.9	7.2	5,071	12.7
台湾	23	530	22,598	2.7	79,156	5.5	6.3	3,371	15.6
シンガポール	5	308	56,319	3.6	15,543	9.2	9.4	2,840	5.0
NIES4国・地域計	85	2,545	29,941		233,127	9.0		2,743	9.2
マレーシア	30	327	10,803	5.4	10,231	3.9	5.7	338	3.1
タイ	69	374	5,445	3.4	13,297	7.6	11.6	198	3.6
インドネシア	251	889	3,533	5.5	10,159	-3.6	3.1	40	1.1
フィリピン	99	284	2,865	6.7	4,420	12.5	13.0	44	1.6
ベトナム	91	186	2,053	5.5	1,290	22.6	12.8	14	0.7
ASEAN5計	540	2,060	3,815		39,397	7.1		73	1.9
中国	1,368	10,380	7,589	7.7	176,950	15.4	13.4	127	1.7
インド	1,260	2,050	1,627	6.4	55,299	6.4	1.0	44	2.6
アジア11計	3,253	17,035	5,237		504,773	10.8		155	3.0
(参考)日本	127	4,616	36,332	1.1	371,588	-3.1	3.3	2,926	8.4

(資料) 保険関連データはスイス再保険会社「Sigma No4/2015」、その他はIMF「World Economic Outlook Database, April 2015」により筆者作成

1 | 2014年の振り返り

アジアの11ヶ国・地域の生保市場(「アジア 11」)合計の生命保険料収入は、域内の堅調な経済情勢の中、対前年比 10.8%増となった。インフレ率を除いた実質ベースの伸び率で各市場別の動向をみると、中国(13.4%)、フィリピン(13.0%)、ベトナム(12.8%)、タイ(11.6%)が二けたの高い伸び率を記録した。中国市場では、販売チャネル面の寄与(銀行による販売(バンカシュアランス)の回復やインターネットを活用した新販売チャネルへの取組み等による)と解約率の低下が増収の主要因に挙げられている。他方、相対的に低めの伸び率となったインドネシア(3.1%)とインド(1.0%)では投資型保険の伸びが鈍化したことの影響が大きかった。

2 | 2015・16年の見通し

2015・16年のアジア生保市場の見通しについては、スイス・ミュンヘンの2大再保険会社のレポート¹でも、全般的に堅調な伸びが予測されている。中でも、生損保併せた保険料の GDP 対比の割合を 2014 年の 3.3%から2020年までに5%に引き上げることを目標に掲げる中国²や、保険法の改正(外資出資比率の制限に関し従来の 26%を 49%まで引上げ)や税制優遇の拡大によって市場環境の好転が予測されるインドなどで高めの成長が見込まれている。直近の予測であるミュンヘン再保険の『Insurance Market Outlook』(2015年5月公表)では、アジア新興市場の保険料伸び率(実質ベース)を15年9.7%、16年9.6%と見込んでいる。

2——10年間の市場変化と今後の見通しについて

次に、2004年と2014年の主要な指標を対比し、10年のスパンにおけるアジア生保市場のプレゼンスの変化や拡大傾向を確認したい。

図表-2 2004年対2014年 生保保険料関連主要 諸指標の比較

	名目GDP構成比 %			生保保険料構成比 %			生保保険料/人ドル			生保保険料/GDP %		
	2004	2014	増減	2004	2014	増減	2004	2014	増減	2004	2014	増減
NIES4国・地域計	3.2	3.3	0.1	5.4	8.8	3.4	1,296	2,743	1,447	7.8	9.2	1.4
ASEAN5計	1.7	2.7	1.0	0.6	1.5	0.9	22	73	51	1.6	1.9	0.3
中国	3.9	13.4	9.5	1.8	6.7	4.9	27	127	100	2.2	1.7	▲ 0.5
インド	1.6	2.7	1.1	0.9	2.1	1.2	16	44	28	2.5	2.6	0.1
アジア11計	10.4	22.0	11.6	8.8	19.0	10.2	56	155	99	3.9	3.0	▲ 0.9
日本	11.5	6.0	▲ 5.5	20.9	14.0	▲ 6.9	3,044	2,926	▲ 118	8.3	8.4	0.1
米国	28.9	22.5	▲ 6.4	26.8	19.9	▲ 6.9	1,693	1,657	▲ 36	4.2	3.0	▲ 1.2
欧州	35.6	29.4	▲ 6.2	37.6	37.8	0.2	848	1,138	290	4.7	4.1	▲ 0.6
中南米	4.9	7.9	3.0	1.1	2.8	1.7	37	122	85	1.0	1.8	0.8
その他地域	8.7	12.2	3.5	4.8	6.5	1.7						
世界計	100.0	100.0		100.0	100.0		292	368	76	4.6	3.4	▲ 1.2

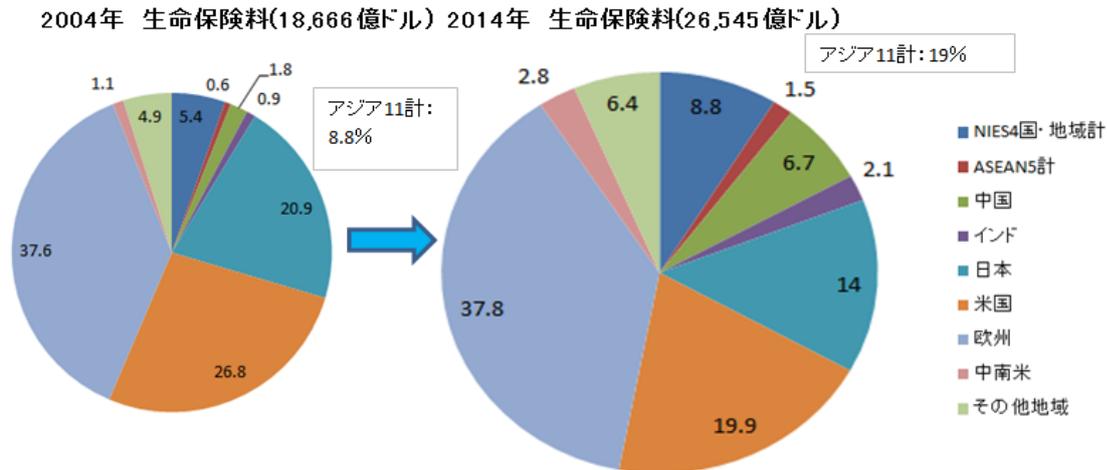
(資料) 保険データはスイス再保険Sigma誌各号、GDPはIMFデータベースにより筆者作成

(参考) 為替レート(対ドル円: 107.49(2004年)、109.96(2014年)、対ドル人民元: 8.28(2004年)、6.16(2014年))

¹ スイス再保険『Global insurance review2014 and outlook 2015/16』(2014年11月)、ミュンヘン再保険『Insurance Market Outlook』(2015年5月)

² 関連レポート: 片山ゆき「中国保険市場の最新動向(9)中国政府が新たな10の指針を発表」『保険・年金フォーカス』ニッセイ基礎研究所、2014年9月16日

図表-3 2004年と2014年の生命保険料の国・地域別構成比(%)



(資料)保険データはスイス再保険Sigma誌各号、GDPはIMFデータベースにより筆者作成

「アジア 11 計」の保険料の世界合計における構成比は、2004 年は 8.8%と日本の 20.8%の半分にも満たなかったが、2014 年には 19% (2004 年対比 10.2 ポイント増)と日本の 14%を大きく上回るシェアとなっている³。14 年の保険料構成比の内訳をみると、特に NIES4 (8.8%、10 年比 3.4 ポイント増)、中国 (6.7%、同 4.9 ポイント増)が目立つ。他方、ASEAN5 の構成比は 1.5%と未だ僅少である。

次いで、生保の普及度を見ると、一人当たりの生命保険料は、2014 年には、NIES4 は 2,743 ドルと我が国 (2,926 ドル)に近い水準となっており、図表-1にあるように、香港 (5,071 ドル)と台湾 (3,371 ドル)は我が国を凌駕している。2004 年には NIES4 は我が国の 43%水準にとどまっていた。ASEAN5、中国、インドも一人あたりの生命保険料を増加させているが、日本や NIES4 に比べるとまだまだ大きな差がある。

さらに、GDP 対比の生命保険料の割合を見ると、10 年には日本 8.3%、NIES4 7.8%と日本が NIES4 を上回っていたが、14 年には、NIES4 が 9.2%、日本が 8.4%と逆転している。図表-1にあるように、NIES4 の各市場別では、台湾 (15.6%)と香港 (12.7%)が我が国を上回る高い水準に達している。他方、ASEAN5、インドで微増、中国は漸減となっている (中国の減少は GDP の大きな増加によるものと推量される)。

3—アジア生保市場の中長期展望

アジア生保市場の中長期の展望に関し、同地域においてさらなる経済発展が見込まれる中、スイス・ミュンヘンの 2 大再保険会社等の諸機関や業界紙の報道などでも一層の拡大が見込まれている。ミュンヘン再保険の『Insurance Market Outlook』(2015 年 5 月公表)には、2015 年から 2025 年までの予測が示されている。それによれば、同期間の生命保険料増収額の 44%を新興国市場が占めるとの予測で、特に、その大宗

³ ただし、2014 年のアジア 11 計の GDP のシェアは 22.0%と生命保険料のシェアの 19.0%を上回っている。

を占めるアジア新興国(除 NIES4)では、この期間の保険料増収率の年率平均(CAGR)が 8.9%と最も高成長が見込まれている⁴。また国別では、上記 10 年間の増収額(世界計)の内、中国が 21.9%、インドが 6.4%を占める。国別の保険料増収率の年率平均のランキングでは、インドネシアが 13.2%と全体のトップ、加えて、中国(9.4%、3 位)、インド(8.4%、4 位)、フィリピン(7.9%、6 位)、タイ(7.8%、7 位)、マレーシア(5.2%、10 位)とアジアから 6 か国がベストテン入りしている(その他は、2 位ブラジル(8.7%)、5 位コロンビア(8.0%)、8 位ポーランド(7.6%)、9 位メキシコ(7.0%)である)。

アジア生保市場の中長期的な成長要因としては、経済成長下での富裕層・中間層の増加と都市化の進行によって、生活水準が向上し生活スタイルが変化・近代化することにより、保険に対する意識や関心が高まる事が考えられる。その結果、生活防衛のための保障性商品(医療保険を含む)へのニーズの増加、資産運用ニーズ対応としての投資・貯蓄関連商品の重要度の増加が予期される。マレーシア・インドネシア等ではタカフル(イスラム保険)の普及も進行しよう。さらに、人口ボーナス期が終わり高齢化に向かう中国やタイなどでは年金など退職準備商品へのニーズが強まるものと予想される。ASEAN 主要国においては、現状未だ低水準の保険普及率の増加傾向が一気に加速するものと考えられる。このような環境において、各国政府は、民間保険の重要性を認識し、その市場発展を促し支援するものと見られる。その典型事例が中国であろう。上述のように同国政府(國務院)は 2020 年までに生損保併せた保険料の GDP 対比の割合を、2014 年の 3.3%から 2020 年に 5%に引き上げるという意欲的な目標を掲げており、その達成のためには、2014 年から 20 年までの期間に毎年 17%の増収率が必要とされる。

アジア生保市場の持続的で健全な発展のためには、保険会社の資本力・競争力の増強や商品・販売・サービスにおける顧客ニーズに応えられる体制の充実・強化が必要になろう。近年、かかる観点で各国が保険業の監督や法制度の整備に努めているが、2014 年 12 月の ASEAN 経済共同体(AEC)のスタート⁵およびその後の取組みは、短時日に保険市場の拡大に寄与するとの可能性は小さいものの、保険監督・法制度の域内の統一化やレベルアップを促す契機になるものとみられる。さらに、欧米日の保険会社に加え、韓国・台湾・中国等を含めたアジアの有力保険会社による M&A も積極活用したアジア域内の各生保市場への参入が進むことが予想される。今後、これらプレーヤー間の競争の促進によって保険市場の開拓・拡大が進行すると考えられる。

<主要参考文献>

- ・ スイス再保険 『sigma』 No. 2/2005、No. 5/2006、No. 4/2015
- ・ 同上 『Global insurance review 2014 and outlook 2015/16』 (2014 年 11 月)
- ・ ミュンヘン再保険 『Insurance Market Outlook』 (2015 年 5 月)
- ・ Asia Insurance Review 各号

⁴ アジア新興国に次いで、中南米 8.2%、中東 6.7%、東欧 5.2%が 5%以上の高い伸び率となっている。

⁵ 関連レポート: 平賀富一「[アセアン経済共同体 \(AEC\) と保険市場の自由化について - 15 年末発足予定の AEC の保険市場への影響と意義](#)」『保険・年金フォーカス』ニッセイ基礎研究所、2015 年 2 月 24 日